

このページでは医療の最前線でご活躍されているメディカルセンターのドクターにリレー方式でご登場頂き、健康と医療についてお話を頂きます。

今月号は野澤香織先生から神経科学がご専門の古田能農先生にバトンが移りました。

## 第202回 日本とアメリカの薬剤師の違い

ペイラー医科大学博士課程学生・薬剤師  
古田能農



皆さんこんにちは。ペイラー医科大学で博士課程学生をしています古田能農と申します。日本の薬学部を卒業し、そのまま上記大学の博士課程へ進学しました。現在はアルツハイマー病に関する研究を行っています。私が薬学出身ということで、今日は「日本とアメリカの薬剤師の違い」について、特に私たちの生活により身近な薬局薬剤師に焦点を当てていこうと思います。ただし下記に述べる内容はあくまでアメリカの薬剤師の大まかな所見であり、実際は州・地域ごとの規制等により異なる可能性がありますのでご了承ください。

### 日本の薬局薬剤師の主な業務

日本とアメリカの違いについて説明する前に、まずは日本の薬局薬剤師の主な業務を記します。薬局薬剤師のメインの仕事は、①処方監査、②調剤、③服薬指導です。処方監査では患者様が病院から貰った処方箋を、薬学的知見から処方箋が正しいかどうかを評価し、処方内容が疑われる場合は処方医に確認します。その確認は処方箋の変更につながることもあるので、薬剤師にとって非常に重要な業務と考えられています。②調剤業務では、処方箋にかかれた薬を準備します。指定された薬はその数に間違いがあってはならないので、準備された薬は別の薬剤師が監査します。③服薬指導では、薬の服薬に必要な情報の提供及び指導を患者様に直接行います。

### アメリカの薬局薬剤師の主な業務

それでは日本とアメリカの薬局薬剤師の業務の違いは何でしょうか？まず上記で述べた①処方監査は日本とアメリカでそこまで変わりません。ただ日本では紙の処方箋を患者様が持ってくる人が多いですが、アメリカの場合、病院から電子処方箋やFax処方箋で直接送られてくる人が多いです。そのため、電子処方箋に関しては個人情報保護の観点から専用のシステムを用意しているところが多いようです。続いて②調剤ですが、これはアメリカの場合、実はあまり薬剤師が行いません。アメリカの場合「調剤テクニシャン」と呼ばれる方が調剤することがほとんどです。またロボットを用いた自動調剤を行っている薬局も多いです。また日本の薬局では日常的に実施されている「一包化」はなく、「散剤」も特殊なものを除き、アメリカでは調剤しません。基本的には錠剤をボトルに入れます。そのためアメリカの薬局薬剤師は多くの労力と時間を要する調剤業務から解放されるため、より他の薬学的専門性が問われる作業に集中するこ

とができます。しかしながら取り揃えられた薬の監査は依然として薬剤師が行います。③服薬指導は日本とアメリカであまり変わりませんが、同じ処方箋が続くような患者様に対しては服薬指導が省略されることもあり、薬剤師ではなく調剤テクニシャンから薬を渡されるだけということがあるそうです。日本の場合は服薬指導が義務化されているため特別な事情がない限りは必ず薬剤師が行います。またこれはアメリカならではの、服薬指導に関しては無料で通訳のサービスが受けられるところもあるそうです。

### 日本にはないアメリカ薬局薬剤師の権限や活動

アメリカの薬局薬剤師はワクチン接種を行うことができます(ただし薬剤師全員ができるわけではなく、特別な研修や試験を薬剤師は受ける必要がある)。ワクチン接種は薬局にとって大きな収入源になっているらしく、インフルエンザのシーズンではワクチン接種の患者様で薬局が忙しくなるそうです。コロナウイルスのワクチン接種にも薬局は大きな役割を發揮していると聞いています。またアメリカ薬局薬剤師は、処方箋の「リフィル」をすることができます。これは高脂血症や糖尿病などの慢性疾患の場合、同じ内容の処方箋が繰り返されるが多々あるのですが、そのような場合医師の指定したリフィル回数の範囲内で、医師の受診なしに薬剤師が直接医薬品を交付できる権限です。実際薬局の薬剤師はこのような慢性疾患を抱えた患者様を相手にすることが多いため、とても効率的なシステムだなと思います。

### アメリカ化する日本の薬局薬剤師？

上記で述べたように、アメリカの薬剤師は薬剤テクニシャンやロボット調剤の活用など、日本より効率的な業務をしている印象を受けます。ただ最近ではこのアメリカのやり方にならって、このような仕組みを導入する薬局も日本に増えてきました。またアメリカの薬局ではOTC医薬品(over the counter:処方箋の要らない一般医薬品)やサプリメントを積極的に取り扱っていますが、日本の薬局もこのようなことに力を入れてきています。このようにアメリカ化する日本の薬局薬剤師がある一方、日本独自の路線として、近年日本では薬局薬剤師が在宅医療や地域包括システムなどにより多く関わるようになってきており、例えば在宅医療中の患者様に薬を届けると同時に、症状の変化など気づくことがあれば地域の病院と連携して治療に関わったりしています。アメリカでは意外なことに薬局薬剤師の在宅医療への関与はあまり進んでいないそうです。一方アメリカの薬局薬剤師も持っているワクチン接種やリフィル処方の権限などを日本の薬局薬剤師にも与えようとする動きはあるものの、他の医療従事者の反発などがありまだまだ苦戦しているそうです。

以上日本とアメリカの薬剤師の違いについて述べてみました。アメリカでは日本以上に身近な存在である薬剤師、その人たちがどんな仕事をし、どんな役割を担っているか、読者の皆様にも少しでも参考になったらとても嬉しく思います。

今回は神経科学がご専門の小川優樹先生です。私と同じく薬学部出身で、現在同じ大学の神経科学部門でポスドクをされています。イクメンで優しいお父さんでもあります！